

こどもの城 ニュース

KODOMO NO SIRO NEWS

2008・5・1 No. 193 発行／〔こどもの城〕広報部 ☎03-3797-5674
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1
http://www.kodomo-shiro.jp

画面の半分以上をしめる黒い影——街並みをきりさき、かなたへと続く。首都高速道路の高架下。一般道との間に立っている。
カメラ（レンズ）を少し上に向けると、黒い影はたおれておむよにのしかかってくる。反対に、両側の建物はそりかえるように後ろへ遠のく。カメラの向きが少し変わるだけで、写真に写る世界が変わる。
垂直に立っている建物は、安定・安心・ふつうに見える。曲がっていると、不安・不安・おちつかない。同じ被写体なのに、わずかなカメラの向きの違いが異なった心の動きを引き出す。
(写真：中根静男／文：たかべとし)



こどもの城映画劇場

見やすく分かりやすく
楽しい上映会をめざして

実際に起こった（起こっている）ものを写した〈映像〉、絵やコンピュータグラフィックスで作った〈映像〉——テレビ、ビデオ（DVD）、映画、コンピュータ・ゲームなどをとおして、私たちはたくさんの〈映像〉に囲まれています。〔こどもの城〕では、身の回りにある〈映像〉に親しみ、〈映像〉への理解を深めてもらおうと、ビデオライブラリーの自由利用のほかに、「こどもの城映画劇場・カナダのアニメーション」（毎月第2日曜日／Bスタジオ）と「おもしろビデオ館」（金曜日／Bスタジオ）という、映像作品の上映会を行っています。

こんなにすばらしい映像作品があるんだよ

「こどもの城映画劇場・カナダのアニメーション」も「おもしろビデオ館」も、夏休みなどの特別期間をのぞく平常期間に開催（特別期間には、スペシャルプログラムを組んで上映することもあります）。「こんなにすばらしい作品があるんだよ」と、子どもたちが目にする機会が少ないけれど、ぜひ見てもらいたいと思う作品を選んで上映しています。〔こどもの城〕スタッフおすすめの上映会です。
2つの上映会では、より多くの子どもたちに〈映像〉に興味をもってもらう、親しんでもらおうと、見やすく分かりやすく楽しい上映会をめざして、さまざまな工夫をしています。

「おはなし」ビデオを中心に「おもしろビデオ館」

「おもしろビデオ館」は、毎週金曜日の15時30分から。大きな画面で、上映することの理解をとったビデオを上映しています。平日の上映なので、幼児向けの「おはなし」のアニメーションを選んで上映しています。上映プログラムは、「おはなし」の内容だけではなく、映像作品としてすぐれたものを選んで組み合わせています。
会場も「こどもの城映画劇場」の半分の広さで、子ども用大人用にイスを分けて並べていますが、乳幼児をかかえたお母さんのために、背もたれのないイスを横に並べています。親子並んで見ることができる席です。小さい子どもが泣いてしまうこともあるので、「こどもの城映画劇場」にくらべると、会場は少し明るめにしています。
動物が出てくる「おはなし」を集めたり、世界と日本の「おはなし」をセットにして比べてもらったり、昔話でも知られていないけれどおもしろい「おはなし」を集めたり、1か月ごとに特集を組んでいます。

基本は、1回に2作品の上映。10分弱の作品2本で、トークなどをふくめて30分弱になるようにしています。1作品ごとにスタッフが登場し、子どもたちの感想を聞くなどして気分転換をはかります。ちょっとした配慮が、最後まであきずに見てもらえることにつながります。
ビデオの上映だけでなく、イベント的な要素として、かんたんな「おはなし」絵本を作るコーナーを設けています（写真左）。最後まで見た人が参加できるスペシャルコーナー。1枚の紙を8ページになるように工夫して折って、かわいらしい絵本にします。「シンデレラ」や「ももたろう」などだれもが知っているお話をベースに、自分の名前と絵を書き込みさえすればできあがり。小さい子どもでも参加できるようにしています。
〈映像〉も絵本もストーリーを伝える、という共通点があると考えると始めた絵本作りです。「おはなし」を作る、考えることが、〈映像〉に親しむ一つのきっかけになってほしいと願っています。



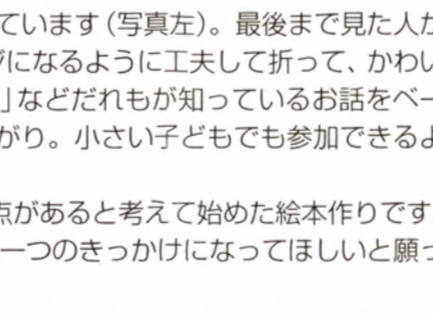
5~7月 こどもの城映画劇場

11時35分/13時35分/14時35分/15時35分
6月11日（上映順：B→A→B→A）
Aプロ：「パースペクティヴ」(6分22秒/Ishu Patel監督)、「失楽園」(3分48秒/Evelyn Lambert監督)、「いたずら椅子」(9分50秒/Norman McLaren監督)
Bプロ：「空想」(2分39秒/Paul Driessen監督)、「町のネズミと田舎のネズミ」(5分25秒/Evelyn Lambert監督)、「母の産月」(13分31秒/Francoise Desbiens監督)
6月13日（上映順：b→a→b→a）
aプロ：「ボサポップ」(2分39秒/Sheldon Cohen監督)、「二羽の小鳥」(5分13秒/Evelyn Lambert監督)、「ムジュー・ポワントゥー」(12分34秒/Bernard Longpre, Andre Leduc監督)
bプロ：「ザムザ氏の復讐」(9分42秒/Caroline Leaf監督)、「ババ」(4分13秒/Michele Pouzet Lambert監督)、「セア」(13分31秒/Andre Leduc, Jean-Jacques Leduc監督)



5~7月 おもしろビデオ館

動物のくぐるおはなし
5月9日：ロージーのおさんぽ スイミー
16日：さかなはさかな きょうりゅうくんとさんぽ
23日：コーネリアス ふしぎなおたまじゃくし
30日：ほくのだ！ わたしのよ！ こきげんなライオン
（おもちゃの国のノティ特集）
6月6日/13日/20日/27日/7月4日/11日/18日 ※毎日2作品づつ上映。



「みどころ」を説明して上映する「こどもの城映画劇場」

「こどもの城映画劇場・カナダのアニメーション」では、世界的に高い評価を得ているカナダ国立映画制作庁（National Film Board of CANADA = NFBC）の短編アニメーション——〔こどもの城〕のフィルムライブラリー「武藤行雄記念文庫」に約150作品収蔵している——を中心に上映しています。平常期間の毎月第2日曜日（11時35分、13時35分、14時35分、15時35分の4回上映）に、Bスタジオで開催（会場のつこうで変更することもあります）。「カナダのアニメーション」というと、言葉がわからないのではないかと心配する人も多いと思います。カナダは、英語とフランス語を公用語とする多言語の国なので、どの言葉を使っている人にも理解できるように、「言葉がない」作品がたくさん作られていて、それらの作品が「武藤行雄文庫」の中心になっています。「言葉がない」ということは、「動き」と効果音・音楽などの「音」で理解することになります。難しいことのようにですが、しっかり作品を見ていけば、だれもが理解できます。ふだんの暮らしのなかでも、ちょっとしたしぐさや動きから、相手の気持ちを理解することがあります。スクリーンのはなはなでは、そうした動きを少しおぼえにしたり、効果的な音をつけ加えることで、より理解しやすいように作られています。
また、ストーリーらしいものがなくて、「動き」そのものを楽しむ作品もあります。音楽にあわせて踊るような「動き」もあれば、次々と形を変えていくような「動き」もあります。
本格的な映画館のように会場を暗くして、大きなスクリーンに16mmフィルムで映写しています。子ども用の小さいイスを前に、大人用の大きないすをその後ろに並べ、みんながスクリーンを見やすいようにしています（写真左）。
なじみの少ない「言葉がない」映画なので、上映前に見どころを紹介し、アニメーションにはいろいろな表現方法があること、ストーリーを楽しむ作品だけではなく画面そのもの（動きなど）を楽しむ作品もあること、作品には作った人の伝えたいことがこめられているのでそれを読み取るように考えながらみること——など、〈映像〉をより深く理解できるようにヒントを伝えます。
感想などを書いてもらうアンケートもお願いしています。見た、楽しかった——で終わってしまうのではなく、最後までしっかり見てもらう、見た作品をふりかえってもらうなど、より深く〈映像〉にふれてほしいからです。小さい子どもには保護者に記入してもらうようお願いすると、感想を話し合いながら、アンケートに記入する姿も見られます。
1プログラムは、2、3作品を組み合わせて、トークもふくめて30分ぐらい。小さい子どもでも、あきずにみることができる時間です。言葉が入っている作品も少しありますが、作品の理解に影響のないものはそのまま、影響がでそうなものは日本語に吹き替えたテープを、もとの音にかぶせるようにして同時に流しています。

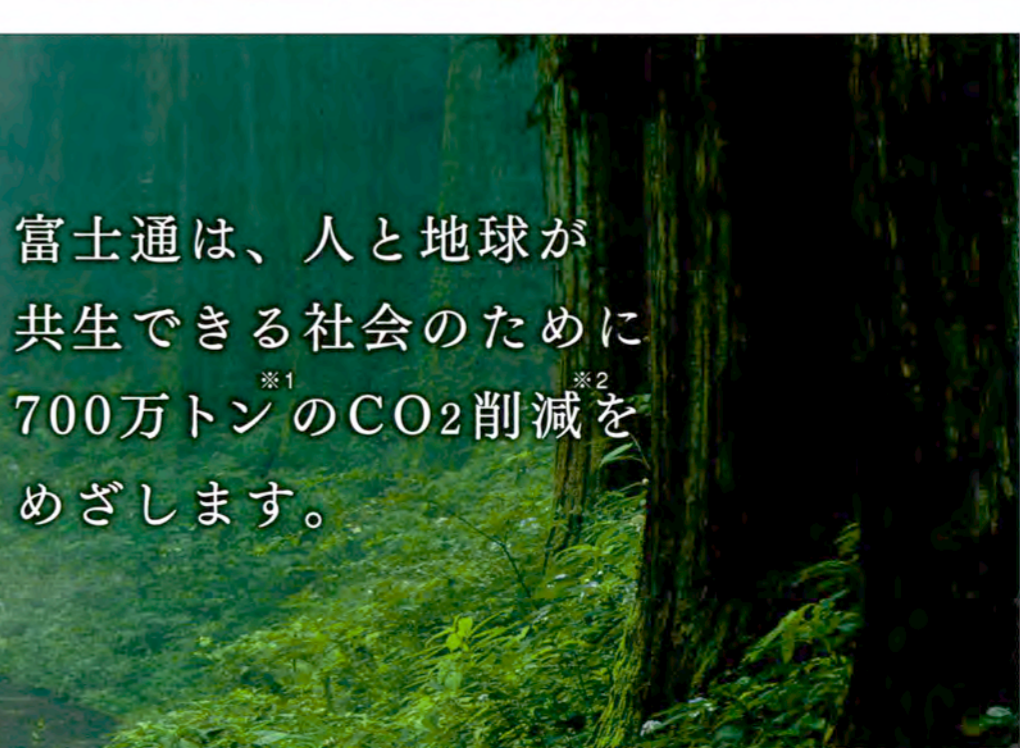
感想などを書いてもらうアンケートもお願いしています。見た、楽しかった——で終わってしまうのではなく、最後までしっかり見てもらう、見た作品をふりかえってもらうなど、より深く〈映像〉にふれてほしいからです。小さい子どもには保護者に記入してもらうようお願いすると、感想を話し合いながら、アンケートに記入する姿も見られます。

1プログラムは、2、3作品を組み合わせて、トークもふくめて30分ぐらい。小さい子どもでも、あきずにみることができる時間です。言葉が入っている作品も少しありますが、作品の理解に影響のないものはそのまま、影響がでそうなものは日本語に吹き替えたテープを、もとの音にかぶせるようにして同時に流しています。

□上映前に行う、見どころ紹介のトークの例□
見てほしいこと、感じてほしいこと、考えてほしいことなどを幼児にも伝わるように分かりやすく話します。「テレビのアニメとちょっと違うのが、いろいろな絵や画面——人形、ねんど、切り絵などを使ったアニメなど、いろいろな作り方をしているのがカナダのアニメの特徴です」と話したあと、それぞれの作品の見どころを話します。例えば……。

「ビーズゲーム」(Bead Game) / 監督：Ishu Patel
ビーズでえがいた形を連続的に変化（メタモルフォーゼ）させて、生命の進化、人類の発展と未来をえがいた作品。アカデミー賞ノミネートふくめ13賞受賞。
黒い紙の上に色とりどりの手芸用ビーズをたくさん並べて、絵をかいていったんだ。そのビーズをちょっとずつ動かしながらパチッ、また動かしてパチッってアニメの撮影のしかたをしていくと、ビーズの絵が動いて見えるんだ。根気よく、長い時間をかけて作られたんだよ。

「垂直な線」(Lines-Vertical) / 監督：Norman McLaren
フィルム上に直接、線をえがいて作られた〈カメラレス〉の作品。画面にあらわれるのは垂直な線だけだが、生きもののようには運動する。ベニス、ロンドンなど5賞受賞。
線だけしか出てこないんだけど、1本から2本、3本とどんどん増えていって、音楽にあわせて踊っているように見えたりするんだ。不思議なのは、線が集まると丸い柱のような形が見えたりする。目のさっかくを利用した映像の手法。何が見えるか考えながら見るとおもしろいよ。



富士通は、人と地球が
共生できる社会のために
700万トンのCO₂削減を
めざします。



FUJITSU
THE POSSIBILITIES ARE INFINITE

※1：杉の木5億本分が1年間に吸収するCO₂量に匹敵 ※2：2010年までの累計削減量

つたわるよめとめをあわせてはなしたら
平成二十年年度
「児童福祉週間」標語

